

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200385		
法人名	株式会社グランファリスナー		
事業所名	グループホーム ひだまりの丘		
所在地	岐阜県美濃加茂市西町7丁目101番地2		
自己評価作成日	令和4年1月31日	評価結果市町村受理日	令和4年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2171200385-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和4年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1.歌声や笑い声が常に響いている家庭的なグループホームです。 2.毎日のラジオ体操、ストレッチ運動に時間をかけ健康と若さを維持できるに支援しています。 3.ガラス越しの面会を継続してご家族と利用者様がいつでも会える工夫をしています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、利用者が地域の一人として、笑顔で穏やかに過ごせるよう支援に取り組んでいる。利用者もまた、職員と一緒に、食事やおやつ作り、洗濯物たたみや掃除など、日常生活動作の維持・向上のために、楽しく生活リハビリを行っている。コロナ禍の今、生活スタイルも変化し制限も多いが、ガラス越しの面会で、家族や知人との関係継続を支援し、体操やレクリエーション等で下肢筋力の維持・向上に繋げている。本人ができる事には、手を出し過ぎないよう心がけ、声かけと見守りで自立を支えている。事業所名の通り、ひだまりのような暖かいぬくもりの中で、利用者が穏やかに暮らせるよう支援に取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の業務分担表に理念が記載されており、職員は毎朝目を通し確認している。常に利用者様に話しかけ家庭的な雰囲気づくりをしている。	理念については、入職時に説明し、いつでも確認できるように、事務所やフロア、日々の業務分担表にも記載している。職員は常に理念を意識し、実践できているかを振り返りながら支援を行い、職員間で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、日常的には難しく新型コロナウイルス感染症によりできていない。以前は地元神社の子どもみこしの休憩所として利用していただいたり、地元保育園の運動会に参加させていただいたり、ボランティアの方々に訪問していただき楽しんでいただいていた。	新型コロナウイルス感染症予防対策の為、中止している行事が多く、地域との交流機会は減っている。感染予防対策をした上で近隣を散歩し、住民と挨拶を交わしている。感染拡大状況を見ながら、地域の一員として出来る事を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は年に一度の夏祭りを通じ地域の方々にお願いいただきひだまりの丘の様子を感じていただけたが現在は夏祭りを中止しているためできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度会議を実施しており行政、民生委員、近隣住民に参加していただいて施設内での活動のや予防接種、感染対策等の情報交換を行っている。	運営推進会議は、感染予防対策に努めながら、定期に開催している。事業所の活動状況を報告し、行政から新型コロナウイルスに関する情報を得ている。参加者から、様々な情報や提案を受け、サービスの向上に活かしている。後日、議事録も配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市へは毎月始めに入居者、待機者の情報を報告している。社協の方へは必要に応じていきいきボランティアの要請を行い派遣していただいている。	行政担当者とは、日頃から、報告・連絡・相談ができる関係にある。新型コロナウイルス感染症予防対策や、予防的PCR検査の情報等、助言を得ている。現在はボランティアの受け入れは中止しているが、収束後には、再開する予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束にならない介護の方法を話し合い実践している。転倒防止のためにセンサーマットやナースコールを利用している。安全確保、利用者様の状況に合わせて対応を家族に説明し理解を得ている。	身体拘束委員会を、3ヶ月に1回開催している。安全対策について検討し、職員間で利用者の状態と支援方法を確認している。言葉による拘束のグレーゾーンについても話し合いながら、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修への参加できておらず施設内では言葉使いや態度等、利用者様の前でご本人が気になるようなことを話さない等、職員同士で注意し合うように心かけている。また、その時のニュースや新聞記事などで検討し話し合いをしている。		

岐阜県 グループホームひだまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に職員が参加出来ていない。十分に理解出来ていないため社内での勉強会も未だ実施されていない。必要な方への支援は行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には契約書を全て読み上げ、高齢者に起こりうる状態についても書面で説明し、納得頂いている。料金確定時には、家族に書面で直接説明を行い理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には常に声をかけ要望を引き出す努力をしている。ご家族には面接時や電話の際に利用者様からの意見や要望を伝え、反対にご家族様からのお話も聞くようにしている。	日頃から、家族が話しやすいよう、雰囲気作りにも努めている。来所時や電話の際には、利用者の様子を詳しく伝え、意見を聞くよう心がけている。ホーム通信は現在、中止しているが、利用者が書いた絵手紙を送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の提案や気づいた事はすぐに把握できる体制ができています。全職員が情報を共有できるよう気づきノートを設けて活用している。管理者、代表者が不在の時には、当日のリーダーが日勤終了時に電話で報告している。	職員は、運営に関する提案や気づいた事は、すぐに「気づきノート」に記載している。管理者は、現場の業務も兼ねており、職員とコミュニケーションを図りながら、利用者への対応や提案などを話し合い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在、人材不足や体調不良等で勤務体制に無理が生じているが、一人一人の就業時間の確認をしながら勤務表を作成している。処遇改善加算も支給している。職員との個別面談は年に一回設けているが、必要に応じ個人的に話を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材不足もあり職員一人ひとりに合った研修には参加できておらず、今後はズーム会議や研修も実施していくよう進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のネット会議に参加し他施設の情報や意見を交換しているが、コロナ禍で中止も多い。研修、講座情報あればズーム会議、講義を利用して取り組むようにする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人への声掛けを多くし、その方の生活歴を聞いたりして安心してもらえるような関係を作る努力をしている。利用者様と一緒にテレビを観たりレクリエーション時やお風呂に入っている時等、本人がリラックスしているような状態の時にも話を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前より家族に入所後の希望、要望を聞いている。利用料の支払いについては、口座振替とすることも説明している。入所申込の段階で、ひだまりでの生活状況を示している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所希望があった時は、可能であれば本人も施設見学をしてもらい、必要性等検討している。生活歴、病歴も詳しく聞かせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の配膳、居室掃除、おやつ準備、洗濯物たたみ、洗濯干し、片付け、作品作りなど一緒に行い、毎日の暮らしを作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が抱える悩みや心配事も話し合える信頼関係を築ける様に面会時などにコミュニケーションを取っている。面会できない方は電話で状況を伝えたり、必要なものがあれば電話で要請している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との面会は事前に連絡を頂き、他の家族と時間が合わないよう調整しながら行っている。また家族の許可を得たうえで友人、知人の面会や電話、手紙のやりとりを受けている。家族からの写真、ぬいぐるみ、飾り物等は居室にかざっている。	以前のように、馴染みの場所に出かける事が難しい。家族とはガラス越しの面会を実施し、家族の許可を得た上で、利用者の知人との面会も受けている。また、手紙のやり取りや電話等でも、馴染みの関係継続を支援している。利用者が家族に手紙を送り、家族からも写真や手紙が送られてきている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方と座る席を近くしたり、同じテーブルにする等の配慮をしている。また、レクリエーション中などすべての方が関われる様配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時にその後の不安、相談があれば対応するよう説明し、夏祭りへの行事参加していただけるよう声掛けをしている。退所後入院先、入所先からの問い合わせがあった時もきちんと対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や訴えをされる方は少ないが生活歴を聞きながら本人の意向をくみ取り出来る範囲で実施している。	利用者が、テレビを見ながら何気なく発した「食べたいわ」という言葉などを職員間で共有し、思いを汲み取る努力をしている。家族からも情報を得て、必要な場合には協力を依頼し、利用者の思いを叶えられるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申し込みの際や居宅のケアマネ、サマリーを元に本人、家族からもこれまでの生活歴を聞き情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送りでの情報や検温、バイタル測定の数値を把握して健全な1日が送れるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、本人の意向を聞きモニタリングの仕方を変え職員間での意見交換、検討してプランの作成が出来るように努めている。	担当職員は、日頃から介護計画に沿った支援が行えているかを確認している。モニタリング時に本人・家族の意向を聞き、全職員と医療関係者からも情報収集を行い、介護支援専門員が介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の他、気づきノートにより全職員への情報を周知しプラン等へも反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物、通院等については家族が対応できることはお願いしている。急遽の場合や、家族が対応できない場合はひだまりで支援させていただいている。		

岐阜県 グループホームひだまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に数回、いきいきボランティアの方に来て頂いたり、おはぎ作り、棒葉寿司作り、訪問ボランティア、隔週水曜日には音楽療法の先生にも来て頂いております。現在はコロナの感染状況を見ながら行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1回、連携医の往診があり健康管理を受けている。その他、特変があった場合は連携医に相談し対応している。個人のかかりつけ病院のある方は家族に通院の付き添いをしてもらっている。	契約時に、かかりつけ医について説明し、利用者と家族が決めている。協力医の往診は月1回あり、利用者の状態について、助言を受けながら支援している。協力医以外への通院は家族が同行している。現在、歯科医の往診は中止のため、家族と通院している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は訪問看護利用者はいない。特変があった場合は連携医に相談し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供書を作成し提出している。退院時には利用者の状況をはあくし、病院関係者から情報得て連携し対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時重度化や終末期の対応について説明し同意を得ている。入院希望された時には情報提供し支援を行っている。	契約時に重度化や終末期の対応について、利用者と家族に説明し、同意を得ている。利用者の状態に変化があれば、その都度、家族に説明し、関係者で方針を話し合っている。要介護度3以上の認定を受けた際には、特養など他の施設の申し込みをする家族もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の訓練はおこなっておらず急変時は出来る範囲で行っている。救急時のマニュアルは電話の傍に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練、通報訓練を行っている。平日に行っている為ご近所の協力は難しいがボランティアの方への参加をお願いしている。	年2回、夜間想定を含めて、災害訓練を実施している。今年度は傾聴ボランティアも参加している。非常持ち出し袋は、玄関の目に付く場所を定位置とし、災害時に備えている。以前、断水の経験があり、飲料水以外の水も備えている。	消火器訓練を希望していたが、コロナ禍の今、消防署の立ち合いがなく、実施できていない。災害時においての連絡網や、近隣住民への協力依頼、備蓄品の整備に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員と利用者様の関係がより近い分、言葉かけや対応が不適切になっていることがある。職員は利用者様一人ひとりに声かけをしてコミュニケーションをとっている。	長期入居の利用者とは、長い付き合いがあり、何気ない声かけが、利用者の自尊心を損ねてはいないかを職員間で話し合っている。常に、利用者一人ひとりの尊重とプライバシーの確保についても、互いに注意喚起しながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自己決定ができるような会話作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本の流れに沿いながらその日の利用者様の意志を優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は常に清潔であるように支援している。ご自分で出来る身だしなみ(髭剃り、ブラッシング)は行って頂いている。二ヶ月ごとのヘアカットを行い髪の毛の乱れに気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	エプロンと三角巾をつけてもらい昼食の盛り付けを楽しんで行っている。おやつ準備も行っている。	三食共、職員が手作りし、当番の利用者はエプロンと三角巾をつけ、進んで盛り付けをしている。感染予防の為、職員と一緒に行うおやつ作りを中止していたが、予防対策をした上で再開している。同じ献立を食べる職員、弁当持ちの職員も、見守りをしながら、一緒に食卓についている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様に合った食事量を調整している。お茶の飲み残しがないよう常に声をかけている。白湯を希望される方にはお茶の代わりに飲んで貰っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけにより毎食後の口腔ケアを見守っている。夜間は義歯を預かり消毒している。食事前の嚥下体操を実施している。		

岐阜県 グループホームひだまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、食事前のトイレ誘導の他、利用者様の排泄能力を優先している。夜間は、排泄のパターンを把握し利用者様にあった排泄用品を選択している。排出能力が低下している方でも現状維持出来るように支援している。	個々の排泄パターンを把握し、様々なタイミングで声かけや見守りを行っている。入居時から、排泄の自立が出来ている人も多く、排泄能力の維持・向上を支援している。排泄用品は、利用者の状態を見ながら、適切な物を家族に依頼している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便日の確認をしている。使用に応じ薬の処方をしてもらっている。白湯を飲む。毎朝体操で腸の体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本としてタイミングが合わなかった時は日を変えて入浴をしている。	入浴は、週2回としているが、利用者の体調により柔軟に対応している。職員は、利用者がリラックスできるようコミュニケーションを図りながら、洗髪や洗身、衣類の着脱などを支援している。自分で行える人は見守りで支援し、難しい場合は介助するなど、残存機能に応じた対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の時間を設けているが利用者様の状況に応じて休息していただいている。入床時には室内の温度を調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や追加のある時は気づきノートにて全職員に周知。症状の変化については医師に相談し指示を仰いでいる。服薬の際には日にち、名前を読み上げ飲み終えた袋も職員がチェックしてから処分している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、洗濯たみ、ゴミ袋折り等利用者様がそれぞれ得意としていることを役割として行っている。週末のおやつ飲み物はメニュー表から好きな飲み物を選んで飲んでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響により必要以外の外出はできていない。暖かい日にはご近所への散歩や外気浴にて気分転換を行っている。	今までは、積極的に外出支援を行っていたが、新型コロナウイルス感染対策として喫茶店や買い物などが集まる場所への外出、家族との外出や外泊も中止している。テラスでの外気浴やお茶会を行ったり、感染予防対策をした上で、気分転換ができるよう近隣の散歩やドライブなどを実施している。	

岐阜県 グループホームひだまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から電話をすることはないがご家族からの電話や手紙のやり取りはできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2フロアのどちらへも行き来ができるようになっている。フローア、脱衣場には床暖房があり温度調整している。季節を感じられる壁画や飾りをしている。	天井が高く開放的な共用スペースである。ソファや椅子、テラスがあり、利用者は、それぞれ落ち着ける場所で寛ぐことができる。フロアの壁には利用者の作品や職員との季節の共同作品を掲示している。利用者が安全に移動できるように、整理整頓している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の好きな場所で過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真等を居室に飾ったり使い慣れたものを使ってもらう。	居室には、利用者が使い慣れた家具や寝具、日用品を持ち込むことができ、整理整頓されている。家族からの手紙や写真、置き物、職員からの誕生日祝いの色紙が飾っており、利用者が落ち着いて暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に名札をつけている。歩行器や手押し車、杖を使用し自立した生活を送れるよう支援している。		